

事業名

地域で育み、地域で支える 田原力

目標

教育力を高め、地域の力が子どもたちに生きる地域を目指す

今年度の取組紹介

「田原の子どもたちは田原に住むすべての人で育てる」の考えのもと、毎日の「交通安全立哨指導」や「田原ふれあい夢花壇」と銘打った環境整備活動、また地域活性化を目指した「田原体育まつり」等を実施しています。特に「どんごが丘整美作業」と銘打った奉仕作業は地域と学校の繋が



りを感じる取組です。毎年夏休みを利用して児童生徒全員と保護者、地域教育協議会、有志の方々80名ほどの協力を得て学校の校内外の環境整備を行っています。また田原小中学校は「文化遺産に学び、地域の歴史と伝統のよさに気づき、自分たちの町を愛し、郷土に暮らすことに誇りと喜びを感じることでできる子どもの育成」を目指しています。その目標を実現するひとつは、地域に伝わる文化や伝統を次世代に伝えていくことであると考えます。伝統芸能保存会を中心に、田原幼稚園、小中学校合同で祭文踊り・千本づき(餅つき)など地域に伝わる文化や伝統を子どもたちに伝えています。また地域の伝統産業を指導するためゲストティーチャーとして協力しています。



今年度のまとめ

田原は豊かな自然や伝統文化が地域の方の努力で現在にまで引き継がれてきている地域です。幼稚園、小中学校は「ふるさとや自然を愛する心を育てる」「地域に伝わる文化や伝統を守り伝える」「豊かな心と確かな学力を身につける」を目標に様々な活動に取り組んでいます。本教育協議会では将来的に地域を支える人材の育成が大切であると考え、田原幼稚園、小中学校の目標に沿って地域としてできることを考え、学校園を支援したいと思います。「田原が好き」「田原に誇りを持てる」子どもの育成に全力をあげていきます。

来年度に向けて

田原地区は以前から学校、幼稚園とともに歩んできた地域であり、さほど大きな変化は生まれていないかも知れませんが、地域には「学校づくりへの意識」が深まったように思われます。特に今年度は「双方向の連携」ということで地域と学校がさらに連携を深めることができました。具体的には公民館活動や地域の活動に積極的に参加する児童生徒の姿が見られました。またコミュニティスクール全国大会に参加することで今後の地域と学校との連携の在り方が見えてきました。

来年度に向けての課題として、この活動の目的、意義を理解いただくために広報活動をさらに進めることと地域の方に「協力から連携へ」「参加から参画」の意識をもっていただき、より多くの方が参加できる体制を構築していく必要があります。

事業名

未来に夢つなぐ一貫教育 TAWARA

目標

9年間の学びを再構築し、将来の自己実現につなげる

今年度の取組紹介

【小中一貫教育の特性を生かした取組】 ～新しい学習プランの構築～

田原小中学校は前中後期の各ブロックの活動に重きを置き、上の学年にモデルを持つことを意識した活動を行ってきました。それは学校行事や各ブロックの行事を始め、日常生活のあらゆる場面で行っています。



またブロックの枠をはずした異年齢集団による活動も豊かな心を育てる活動として定着しています。今年度は「どんごが丘フェスティバル」と銘打って生徒が企画し、運営した文化祭を地域の方も参加しやすいように土曜日に開催しました。その文化祭に子どもたちが中心となって呼びかけを行い、当日は昨年と同様に地域の方に作っていただいた食事を地域の方



ともにいただく予定をしていましたが、残念ながら気象状況の悪化に伴い、やむなく当日実施はできませんでした。また昨年度から体育の授業に組み入れられた「剣道」の授業に学習支援ボランティアとして来ていただく等、日常の学習ボランティアとしての活動が始まっています。

今年度のまとめ

「9年間の連続性・継続性を生かした一貫教育を行い、豊かな心と確かな学力を身につけた世界にはばたく人間を育成する」を学校目標に田原小中学校は小中一貫教育を進めてきました。この目標を達成するためには学校での取組はもちろん、地域との連携を大切にしながら取り組むことは必要です。豊かな心の育成にあたっては今後も地域との連携は不可欠であるが、さらに学んだことを発信することで田原小中学校の取組を知っていただき、双方向の連携を大切に活動を考えていきます。また9年間の一貫した学習活動を具現化し、将来にむけての生き方を考えるうえでキャリア教育を意識した活動も取り入れました。

来年度に向けて

活動の広がり等を考える時、人との関わりの少なさが、将来への夢へとつながっていきにくいという小規模校ゆえの課題が浮かび上がってきます。

そんな中、この事業を通して様々な人と接する機会を得て、話を聞くことで様々な価値観があることを知り、それが将来に向けて自分の進路を考えるきっかけとなりました。本年度は公民館活動への参加や学校行事を休日開催することによって地域の方が多数参加していただけるようになりました。次年度はさらに積極的に外に出て、活動の幅を広げることができるよう計画していきます。また生徒自身が地域との繋がり的重要性を感じ、児童生徒会を中心として様々な場面での交流を企画しようとしています。

事業名

田原を学び、田原に学ぶ「未来にはばたけ田原っ子」

目標

自然豊かな田原を愛し、伝統文化を次世代に引き継ぐ

今年度の取組紹介

子どもたちにも興味を持って取り組めるような体験的な活動を中心に、保護者・地域・お年寄りの方などから伝統芸能や、伝統文化について教えていただく機会をもっています。具体的には、幼小中合同運動会に向けての祭文踊りや祭文語りの練習、また本番での祭文踊り、新年集会での千本づきによる餅つき等が挙げられます。



小学校では総合的な学習の時間等を活用して地域の方にきていただき、様々な取組を行なっています。例えば「ふれあい夢花壇」と銘打った環境整備活動では地域の方とともに花を植え、花のことについていろいろ教えていただいたり、田原の産業でもある「お茶」については地域の方に講師としてきていただき、お茶についていろいろと教えていただきました。また「どんごが丘フェスティバル」と銘打った文化祭では自分たちが学んできたことを地域の方に知ってもらおう発表を行ないました。



今年度のまとめ

田原小学校は、まわりを里山と茶畑と田畑に囲まれた落ち着いた地域です。太安万侶の墓地があることでも有名であり、また全国で唯一「祭文」が残されている地区でもあります。室町時代に始まった「祭文」は奈良県の無形民俗文化財に指定されています。しかし、過疎化が進み、子どもたちの数も年々減ってきているのも事実であります。

このような状況の中、学校においても、田原小中一貫教育校としての9年間の長いスパンの中で、子どもたちを見守り、地域とのつながりを大切に「ひと・もの・こと」の関わりを通して、ふるさとや自然を愛する心を育てる取組をすすめることが大切であると考えます。

来年度に向けて

これまでも様々な体験活動を通して、田原の伝統芸能や文化について教えていただくことが多かったのですが、今年度は学んだことを地域に発信していく活動を展開することができました。そのことで田原のよさに気づき、文化や伝統を守り、郷土を大切にしていこうという気持ちが育ってきます。また児童自身が地域との繋がり的重要性を感じ、児童生徒会を中心として様々な場面での交流を企画しようとしています。具体的には公民館活動への参加や学校行事に地域の方が参画していただけるよう休日開催や出し物の企画をしました

テーマ

田原わくわくハッピープラン

目標

すべての活動において、田原っ子がわくわくし、幼稚園生活が大好きになるように、遊び・人とかかわる様々な経験・自然環境の充実などを目指したい。

今年度の取組紹介

- 今年度初めて地域の方や保護者と一緒に、貸し切りバスを利用して『うだ・アニマルパーク』への遠足を10月に実施しました。地域の方々や評議員さんにもご参加いただいたの賑やかな遠足となりました。地域の方と一緒にエサをやったり動物にふれたりする中で、自ら話しかけ会話を楽しんでいる様子も見られました。また、動物にふれる直接体験を重ねられたことは、命の大切さを実感する機会となり、11月の園内作品展では『うだ・アニマルパーク』を共同制作の題材にしたいと子どもたちから声があがりました。園内作品展に地域の方や評議員さんをご招待し、「あの遠足のだね。」「楽しかったね。」と思い出しながら会話も弾みました。
- 昨年度まで教師が行っていましたが、今年度は地域の方にゲストティーチャーとして来園していただき、5月には田原小中学校の1年生も招待しての野点を催しました。畳の上での歩き方やお茶のお作法など、わかりやすく丁寧に教えてくださったこともあり、改まった気持ちの中、日本の伝統文化にふれることができました。また、1月には保護者を交えての初釜としてのお茶会も行いました。新年を新たな気持ちで迎えるに相応しい活動となりました。



今年度のまとめ

- 今年度は、新たに『秋の遠足』・『どんごが丘フェスティバル』への参加や、新たな地域の方をお迎えしての『お茶会』・『園内作品展』など、地域の方や小中学生と一緒に活動したり、幼児の生き生きとした伸びやかな姿を見ていただいたりする機会を多くもつことができました。作品展では「のびのびとした絵を見たときは、日頃の園生活の楽しさが表れていると思いました。」「自然とのふれあいがすべての作品に出ているように思いました。」などの感想をいただきました。
- 園外保育などで地域に出かけた時、幼児が自分から挨拶をしたり、地域の方から声をかけていただいたりすることが多くなりました。また、小中学生に対してお互いに親しみの気持ちをもって交流を楽しむ場面も多く見られるようになりました。

来年度に向けて

- 地域の方々にも幼稚園のことを知っていただくためにも、園の教育や行事、活動、幼児の姿などを発信し、より地域の中の親しみやすい幼稚園を目指していきます。
- 少人数での保育のため人とのかわりに偏りが見られがちです。地域の方や保護者、小中学校との交流も含め、自分の思いや考えに自信をもって表現できる力をつけていきたいと思ひます。